

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程 通信）

事業者名：株式会社ケアワーク弥生

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム(実施要綱別紙1)		実施計画	
講義・演習(実習)		カリキュラム名・時間数	実施内容
1 職務の理解	6時間	1 職務の理解	6時間
(1)多様なサービスの理解		(1) 同左	3
(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解		(2) 同左	3
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間
(1)人権と尊厳を支える介護		(1) 同左	7.5
(2)自立に向けた介護		(2) 同左	1.5
3 介護の基本	6時間	3 介護の基本	6時間
(1)介護職の役割、専門性と多職種との連携		(1) 同左	1
(2)介護職の職業倫理		(2) 同左	1
(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント		(3) 同左	3
(4)介護職の安全		(4) 同左	1

1 職務の理解
 講義及び演習：講座の開始に当たり、多岐にわたる介護系サービスについての印象を、グループ討議で語り合う。
 (2) 講義及び演習：介護職が活躍する現場の様子を映像などを通して理解し、グループで感想を述べあう。

2 介護における尊厳の保持・自立支援
 (1) 通信講習のみ
 (2) 講義及び演習：テキスト等の事例を基に、自立支援の本質を理解する為に、グループ討議を行う。

3 介護の基本
 (1) 通信講習のみ
 (2) 通信講習のみ
 (3) 講義及び演習：現場で想定されるリスクを理解し、その対処法などをグループで討議する。
 (4) 通信講習のみ

別記第1号の2様式（介護職員初任者研修課程関係）

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	
(1)介護保険制度	
(2)障害福祉制度及びその他制度	
(3)医療との連携とリハビリテーション	
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間	
(1)介護におけるコミュニケーション	
(2)介護におけるチームのコミュニケーション	
6 老化の理解 6時間	
(1)老化に伴うところとからだの変化と日常	
(2)高齢者と健康	
7 認知症の理解 6時間	
(1)認知症を取り巻く状況	
(2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	
(3)認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	
(4)家族への支援	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9時間
(1) 同左	1.5
(2) 障害者総合支援制度及びその他制度	4
(3) 同左	3.5
5 介護におけるコミュニケーション技術	6時間
(1) 同左	3
(2) 同左	3
6 老化の理解	6時間
(1) 同左	3
(2) 同左	3
7 認知症の理解	6時間
(1) 同左	1
(2) 同左	1
(3) 同左	3
(4) 同左	1

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	
(1) 講義及び演習:制度の全体像を把握し、実際に利用される資料を基にグループで討議を行う。	
(2) 通信講習のみ	
(3) 通信講習のみ	
5 介護におけるコミュニケーション技術	
(1) 講義及び演習:利用者の状況・状態に応じた、コミュニケーションの方法を、グループ毎で行うロールプレイングを通じて討議する。	
(2) 通信講習のみ	
6 老化の理解	
(1) 講義及び演習:老化に伴う身体的、精神的変化について具体的な事例を基にグループで討議する。	
(2) 通信講習のみ	
7 認知症の理解	
(1) 通信講習のみ	
(2) 通信講習のみ	
(3) 講義及び演習:認知症の具体的な事例について、多角的に考察し、対応方法についてもグループでロールプレイングを実施し討議する。	
(4) 通信講習のみ	

別記第1号の2様式（介護職員初任者研修課程関係）

8 障害の理解	3時間
(1)障害の基礎的理解	
(2)障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	
(3)家族の心理、かかわり支援の理解	
9 ころとからだのしくみと生活支援技術	75時間
ア 基本知識の学習	10～13時間
(1)介護の基本的な考え方	
(2)介護に関するころのしくみの基礎的理解	
(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解	
イ 生活支援技術の講義・演習	50～55時間
(4)生活と家事	
(5)快適な居住環境整備と介護	
(6)整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	
(7)移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	
(8)食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	
(9)入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	

8 障害の理解	3時間
(1) 同左	0.5
(2) 同左	1
(3) 同左	1.5
9 ころとからだのしくみと生活支援技術	75時間
ア 基本知識の学習	12時間
(1) 同左	2
(2) 同左	5
(3) 同左	5
イ 生活支援技術の講義・演習	51時間
(4) 同左	3
(5) 同左	3
(6) 同左	6
(7) 同左	9
(8) 同左	9
(9) 同左	9

8 障害の理解	
(1) 通信講習のみ	
(2) 通信講習のみ	
(3) 講義及び演習：障害者の家族関わり方について、心理的、肉体的な介護負担の側面から、その負担軽減策をグループで討議する。	
9 ころとからだのしくみと生活支援技術	
ア 基本知識の学習	
(1) 通信講習のみ	
(2) 通信講習2、講義及び演習3：介護にまつわる心理的な側面を、当事者意識を持ちながらグループワークで討議する。	
(3) 通信講習3、講義及び演習2：バイタルサインの測定、ボディメカニクスの実技演習。	
イ 生活支援技術の講義・演習	
(4) 通信講習2、講義及び演習1：家事援助における共有すべき知識についてグループ討議。	
(5) 通信講習のみ	
(6) 講義及び演習：衣服の着脱等、整容にまつわる実技演習。	
(7) 講義及び演習：体位変換、移乗介助、移動介助(車いす・杖等)等、移動移乗に関わる実技演習。	
(8) 講義及び演習：献立の立て方、食事介助、口腔ケア等食事に関連した実技演習。	
(9) 講義及び演習：入浴介助、部分浴(手浴・足浴)、洗髪、清拭等、入浴及び清潔保持に関連した実技演習。	

別記第1号の2様式（介護職員初任者研修課程関係）

(10)排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(11)睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(12)死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	
(実習) [※] （50～55時間中12時間以内）	
介護実習	○時間
ホームヘルプサービス同行訪問	○時間
在宅サービス提供現場見学	○時間
ウ 生活支援技術演習	10～12時間
(13)介護過程の基礎的理解	
(14)総合生活支援技術演習	
10 振り返り	4時間
(1)振り返り	
(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修	
追加カリキュラム	
計	(130 時間)

(10)同左	3
(11)同左	6
(12)同左	3
(実習) [※]	0時間
ウ 生活支援技術演習	12時間
(13)同左	6
(14)同左	6
10 振り返り	4時間
(1)同左	2
(2)同左	2
計	(130 時間)

(10) 講義及び演習：各種福祉用具を使用した排泄介助や、おむつ交換等、排せつに関連した実技演習。
(11) 講義及び演習：ベッドメイキング(シーツ交換)の実技演習や睡眠に関する仕組みについての討議をグループ毎に行う。
講義及び演習：看取りについての考え方を具体的な事例をもと(12)に様々な角度から考察し、グループ討議によりその考え方を共有する。
(実習) [※]
ウ 生活支援技術演習
講義及び演習：具体的事例を基にし、実際の書類を使用した実践的な作成演習を、各個人で実施し、その後のグループ討議で仕組みの理解促進を図る。
講義及び演習：具体的事例を提示し、援助職の力が発揮できない要因(14)や、適切な支援技術をグループ毎に討議し、その支援技術について演習を行う。
10 振り返り
講義及び演習：講義全体を通して学んだ事を振り返り、引き続き取り組むべき介護についての課題や個人としての関わり方を、個別に発表する。
講義及び演習：「介護観」という言葉をテーマにグループで討議し、発表する。

※「9ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。